



日本古代ニ於ケル人民ノ移住ニ就キテ(其七)

内田, 銀藏

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 5(6):827-843

(Issue Date)

1908-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051332>



日本古代ニ於ケル人民ノ移住ニ就キテ (其七)

京都文科大學教授

文學博士 內田 銀藏

本州ノ東北部卽チ今ノ奥羽ノ地ハ、モト所謂蝦夷國ナリ。舊唐書東夷傳ニハ、我邦ノコトヲ記シテ、西界南界ハ大海ニ至ル、東界北界ハ大山アツテ限ト爲ス、山外ハ卽チ毛人之國トイヘリ。毛人モ蝦夷ト同ジク「エミシ」ト訓ス、東北邊ノ原始人民、卽チ「エミシ」ハ、概シテ毛深カリシ故ニ、毛人ノ文字、亦填用セラレシコト人ノ能ク知ル所ナリ。

日本紀卷十、應神天皇三年ノ條ニ、東蝦夷悉ク朝貢ス、卽チ蝦夷ヲ役シテ廐坂道ムササカノヲ作ラシムト云フコト見エタリ。マタ同書卷二十六齊明天皇元年ノ條ニハ難波ノ宮ニ於テ北蝦夷九十九人、東蝦夷九十五人ヲ饗シ給ヒシコトヲ記ス。其ノ所謂東、蝦夷トハ陸奥ノ蝦夷ヲ指シ、北、蝦夷トハ越國コシノ邊疆ニ居レルモノ、卽チ今ノ越後ノ北部

及羽前羽後地方ノ蝦夷ヲイヘルナリ。日本紀ニハ東蝦夷ト云フ代リニ陸奥、蝦夷トイヒ、マタ北蝦夷トイハズシテ越、蝦夷若シクハ越邊、蝦夷トイヘル例モ屢々コレアリ。而シテ續日本紀ノ初メノ部分ニ於テハ、陸奥、蝦夷ニ對シテ、先キノ所謂北蝦夷若シクハ越、蝦夷ノコトヲ越後、蝦夷ト稱シ居レドモ、後ニハ之ヲ出羽、蝦夷ト呼ブコトトナレリ。カク名稱ノ次第ニ改マレルハ、越國ヲ分割シテ、其ノ東北ノ部分ヲ越後國ト稱シ、次デ更ニ越後國ノ東北邊ニ出羽國、新ニ置カレタルヨリ起レル自然ノ結果ナリトス。出羽國建置ノコトハ、後ニ述ブベシ。因ニイフ、古代ニ在リテハ、今ノ北海道ノ地ニ住セル蝦夷ヲバ、特ニ度島蝦夷ト呼ビ居リシナリ。

越後出羽方面ノ蝦夷ハ、或ハ之ヲ狄トモイヒ、同ジク「エミシ」ニテモ彼等ヲ指ス場合ニハ、特ニ蝦狄ト書セルコトモアリタリ。元明天皇和銅五年九月巳丑ノ太政官ノ奏言ニハ北道蝦狄遠、憑阻險、實縱狂心、屢驚邊境、自官軍電擊、凶賊霧消、狄部晏然、皇民無擾ノ語アリ、又元正天皇靈龜二年秋九月、中納言巨勢萬呂ノ上言ニ狄徒、又ハ狂狄トイヘルナド以テ徵スベシ。其ノ頃ハ、陸奥ノ蝦夷ヲ征スル將軍ヲ陸奥鎮東將軍、又ハ持節征夷將軍ナド、イヘルニ對シ、越後出羽方面ノ蝦狄ヲ討ズル將軍ノコトヲ

ハ、征越後、蝦夷將軍、征狄將軍、又ハ持節鎮狄將軍ナド、イヘリ。カク狄ノ字ヲ用ヒタルハ、支那ニテ東方ノ異種族ヲ夷トイフニ對シ、北方ノ異種族ヲ專ラ狄ト呼ベルニ據レルモノニシテ、即チ越後出羽方面ノ蝦夷ハ、北方ノ蝦夷ナルガ故ニ、之ヲ狄トイヒ、又蝦狄トモ書シタルナリ。

上ニイヘル區別ハ、專ラ其ノ居住地ニヨレル區別ナルガ、茲ニマタ蝦夷部落ガ日本種族ノ文化ニ染ミ、性質溫柔トナレルヤ否ニヨリテ立タル區別アリ。即チ龜蝦夷ト熟蝦夷トノ區別是レナリ。龜蝦夷ハ、未ダ日本種族ノ文化ニ染マズ、尙ホ其ノ粗野ノ風習ヲ改メザルモノヲイヒ、熟蝦夷ハ、既ニ優等民族ノ文化ニ染ミ、其ノ性質頗ル溫柔トナレルモノヲイヘルガ如シ。前者ハ生蕃トモ稱スベク、後者ハ熟蕃トモイフベキモノナリ。此ノ龜蝦夷、熟蝦夷トイフコトハ日本紀卷二十六、齊明天皇五年秋七月ノ條ニ引ケル伊吉連博德書ノ文中ニ見ユ。但シ其ノ記事ニハ、龜蝦夷、熟蝦夷ト共ニ別ニ都加留トイフヲ舉ゲタリ。即チ本書ニハ、我邦ノ使節、唐國ニ到リテ唐ノ天子ニ謁シタルトキ、唐ノ天子、蝦夷ハ幾種ゾト問ハル、我ガ使節之ニ答ヘテ三種アリ

遠キモノハ、都加留^{ツカル}ト名ク、次ハ龜蝦夷、近キモノハ熟蝦夷ト稱ス、今此ノ熟蝦夷毎歲本國ノ朝ニ入貢スト言ヘリトイフ。蓋シ近地ニアル蝦夷、先ヅ日本^{ヤマト}種族ノ文化ニ染ミ、其ノ強暴粗野ノ俗ヲ改メテ熟蝦夷トナレルハ、固ヨリ自然ノコトニシテ、龜蝦夷ハ、ソレヨリハ一層隔遠ノ地ニ居リシナリ。而シテ都加留トイフハ、今ノ津輕地方即チ本州中、最モ奥ノ地ニ住セシ蝦夷ニシテ、コレモ亦其ノ性質ヨリシテイヘバ、畢竟一種ノ龜蝦夷ナリシナランガ、其ノ特ニ隔遠ノ地ニ居レルモノナルガ故ニ、他ノ龜蝦夷トハ區別シテ、別段ニ一類ト立テラレシモノナラン。或ハ都加留ハ其ノ風俗習慣若シクハ體質、言語等ニ於テ、他ノ比較的近キ地ニ住スル蝦夷ニ比シ特徴アリシガ故ニ、別ニ一類ト立テラレタルヤモ知ルベカラズト雖、如何ナル特徴ヲ有セシカハ、尙ホ不明ナリ。

蝦夷ニ關シテハ尙ホ述ブベキコト多シ。マタ今ノ北海道及佐渡等ニ肅慎人ノ來住セルコトモ茲ニ附言シ置カント思ヒタレドモ、今ハ暫ク之ヲ省キ、次ニ陸奥、出羽ノコトヲ一言セン。

陸奥ハ古事記ニハ道奥ト書セリ、何レモモト「ミチノオク」又約シテ「ミチノク」ト訓

ミシナリ。

常陸モ古事記ニハ
常道ト書セリ。

而シテ「ミチノク」ノ國ヲマタ略シテ「ミチ」ノ國トイヒ、ソレヨリ

轉ジテ「ムツ」

ノ國ト唱フルニ至リシモノ、如シ。

陸ノ字ヲ數字トシテ六ノ代リニ書スルヨリ混ジテ「ムツ」ト唱フルニ至リシナラントノ考ハ、予之ヲ探ラズ。

道奥トハ、

其ノ東北ノ極端ニ在リテ、即チ奥ノ國ナルヨリ此ノ名ヲ得タルモノナリ。

次ニ出羽ハ如何トイフニ、是レハモト越後ニ屬スル一郡ノ名ナリシモノナリ。元明

天皇ノ和銅元年ニ越後國言フ、新ニ出羽郡ヲ建テント、之ヲ許ストアル即チ是レナ

リ。コノ出羽郡ガ基トナリテ、同五年遂ニ出羽國ヲ置キ、是レ迄陸奥國ニ屬セシ最上

置賜二郡モ出羽國ニ屬セシメラル。是レ其ノ建置ノ來由ナリ。出羽ハモト正シクハ

イデ「ト訓メルモノ、如シ。陸奥、出羽、其ニ歷代經略ノ進ムニ伴ヒテ其ノ管郡ノ増

加方域ノ擴大等、記スベキコト多シト雖、ソレ等ハ主トシテ歴史地理ノ問題ニ屬ス

ルヲ以テ、茲ニハ之ヲ述ベザルベシ。

奥羽ノ地へ日本種族ノ進入スルヤ、少クトモ三ノ路筋ヲ採レルモノ、如シ。一ハ越國即チ北陸道ノ方面ヨリ羽前、羽後ノ地ニ向ヒ、一ハ下野ヨリ山道ヲ經、即チ那須

ヨリ白河ヲ過ギテ、今ノ磐城、岩代及陸前ノ各地ニ分レ進ミ、一ハ常陸ヨリ海道ニ由リ、即チ上古ノ多珂國ノ方面ヨリ北進シタルモノアリシコト、思ハル。是レハ恐ラク何人モ別ニ異論ナキコトナラン。其ノ中、第二ト第三トニ關シ、左ニ少シク所見ヲ述ベ置クベシ。

日本武尊ノ傳說ニハ、尊東征シテ蝦夷ノ境ニ至リシ時、蝦夷ノ賊首島津神、國津神等、タカノミナト竹水門ニ屯シテ、拒ガントセシガ、遙ニ王船ヲ見テ其ノ威勢ニ怖レ歸服シタリトイヘリ。其ノ所謂島津神、國津神ハ、今ノ磐城陸前方面、沿海地方ノ蝦夷部落ノ酋長ヲイヘルナルベク、竹水門ハ、其ノ指示スル所、明確ナラズト雖、蓋シ上古ノ多珂國今ノ常陸ノ北部ヨリ磐城國ニモ亘レリノ津ト解スルコト最モ穩當ナラン。要スルニ此ノ傳說ニヨリテ、早ク海道ノ方面ニ於テ漸次北進セル日本種族ガ蝦夷ト觸接シ、之ヲ服從セシメタルコト、マタ早キ時代ニ於テ、此ノ方面ノ遠征ガ時トシテ海路ヨリセラレタルコトモアリシナルベキコト、自カラ推察セラレ得ベキニ似タリ。又類聚三代格卷一、貞觀八年正月二十日ノ太政官符、竝ニ三代實錄卷十二、同年同月同日ノ條ニ據レバ、常陸國鹿島、大

神ノ苗裔神、陸奥國ニ在ルモノ凡ソ三十八社ニシテ、其ノ所在ハ、左ノ如シトイフ。

菊多郡 一 磐城郡 十一 標葉郡 二

行方郡 一 宇多郡 七 伊具郡 一

日理郡 二 宮城郡 三 黑河郡 一

色麻郡 三 志太郡 一 小田郡 四

牡鹿郡 一

鹿島神ハ、即チ武甕槌神古事記ニハ建御雷之男ノ神ニ作レリニシテ、威靈顯著ナル武神トシテ一般ニ之ヲ

尊崇シ居リシコトナレバ、或ハ常陸方面ヨリ進入セズ、鹿島ト別段ノ緣故ナキモノガ、其ノ苗裔神ノ社ヲ陸奥ノ地ニ建立シテ鎮守トスルコト、亦アリ得ベカラズトハ言ヒ難カラシ。然リト雖、今此等ノ社ノ所在ヲ見ルニ、其ノ分布ハ正ニ常陸ノ國境ヨリ磐城ノ海岸ニ沿ウテ、陸前ニ至レリ。サレバ、コレ等ハ蓋シ常陸ヨリ磐城ノ海道ヲ經テ陸前ニ進メル日本種族ノ人民ガ其ノ占領定居ノ地ニ次第ニ建立セルモノト見做スコト、最モ穩當ニシテ、從テ此等神社ノ存在ハ、古代ニ於テ此ノ道筋ヨリセル日本種族人民ノ北進アリシコトヲ標示スルモノト云フベシ。

山道ヲ經由セル北進ニ就キテハ、先ヅ御諸別王ガ蝦夷ヲ撃チタリト云フ傳説ニ注意スルコトヲ要ス。日本紀卷七、景行天皇五十五年及五十六年ノ條ニ豐城命ノ後ナル彥狹島王ヲ以テ東山道十五國都督ニ拜シタルモ、命ハ任所ニ到ル前ニ早ク薨ジケレバ、其子御諸別王ヲシテ東國ヲ治メシム、御諸別王、東下セシニ、時ニ蝦夷騷動シケレバ、即チ兵ヲ舉ゲテ之ヲ撃ツ、蝦夷ノ首帥等降服シ盡ク其ノ地ヲ獻ゼシト云フ。豐城命即チ豐木入日子、命ノ後裔ハ上毛野君、下毛野君等トナリシコト、マタ彥狹島王ハ上野國ニ葬ラレシト云フコトナドヲ考フルニ、此ノ御諸別王ハ、東國ノ中ニテモ今ノ上野下野ノ方面ニ向ハレシモノナルベク、其ノ打チ從ヘラレタル蝦夷ハ即チ山道ノ蝦夷ナルベシ。類聚三代格卷十八、仁明天皇承和二年。西曆八百三十五年十二月三日ノ太政官符ニ、白河菊多ノ兩割セキノコトヲ云ヒテ

右得陸奧國、解ルニ備、檢ルニ舊記、置ラ割ヲ以來、于今四百餘歲矣、

トアルニ據レバ、白河割モ、菊多割ト共ニ、其ノ設置ノ由テ來ル所尙シキコト察スベク、白河ノ道ノ通ゼル亦甚ダ舊キコトヲ想見スルニ足ル。而シテ續日本紀卷三十九、神護景雲三年三月辛巳ノ條ニ、陸奧國、宇多、名取、賀美、信夫、新田、玉造諸郡ノ住人ニ上、

毛野、若シクハ下^ツ毛野ヲ冠セル姓ヲ賜ヒシコト見エ、マタ續日本後紀、卷九、承和七年三月庚辰ノ條ニ、

陸奥國郡磨郡、大領、外正八位上勳八等^{ハセツカベノ}丈部人磨^ノ戸一烟、賜姓上^フ毛野^チ陸奥公^ト、

トアルナドニ徴スレバ、上毛野君、下毛野君ノ族類ハ、下野ノ方面ヨリ進ンデ陸奥ニ入リ、土地ヲ經略シ、威信ヲ布キ、永ク勢力ヲ今ノ岩代、陸前地方ニ樹立シタルモノアルヲ認ムルコトヲ得ベシ。抑^ツ上毛野^ノ陸奥公^ノ下毛野^ノ俯見^{フミ}公ノ類上^ツ毛野若シクハ下^ツ毛野ヲ冠セル姓ヲ賜ヘル陸奥國ノ豪族ハ予輩ノ見ル所ニ從ヘバ必ラズシモ悉ク眞ニ上毛野君若シクハ下毛野君ノ血族ニハ非ルナルベシ。其ノ中ニハ恐ラクハ、本來夷種ノモノモアリシナラント思ハル。然レドモ其ノカハル姓ヲ賜フ以上ハ、彼等ハ必ラズヤ、皆上毛野氏若シクハ下毛野氏ト何等カノ關係ヲ有シ、何等カノ緣故ヲ存セシニ相違ナシ。假令眞ノ族類ニ非ズトスルモ、モト之ニ從屬シ、其ノ保護ヲ受ケ、其ノ庇蔭ノ下ニ立チシ等ノコトアリシナルベシ。故ニ此等ノ姓ヲ得タル氏族ノ住セシ地ハ、即チ上毛野君、下毛野君ノ族類等ガ其ノ勢力ヲ及ボシタル地方ト見做シテ不可ナキナリ。

此ノ山道ノ方面ヨリシテ、阿倍氏ノ族類モ、マタ陸奥ノ地ニ進ミ行キ、各地ニ其ノ勢力ヲ樹立シタルモノ、如シ。是レ亦奥羽ノ拓殖ヲ論ズルモノ必ラズ看過スベカラザル事柄ノ一ナラン。續日本後紀卷十八、承和十五年是年六月庚子ニ改元シテ嘉祥元年ト爲ス五月辛未ノ條ニ曰ク、

陸奥國白河郡大領外正七位上奈須直亦

〇亦一ニ赤ニ作ル

龍、磐瀨郡權大領外從七位下勳

九等大

〇大一ニ式ニ作ル

部宗成、磐城團擬少毅陸奥丈部臣繼島、權主政外從七位下丈部本

成、信夫郡擬主帳大田部月麻呂、標葉郡擬少領陸奥標葉臣高生、〇生一ニ主ニ作ル伊具郡麻

績郷戸主磐城團擬主帳陸奥臣善福、色麻郡少領外正七位上勳八等同姓千繼等

八烟、賜姓阿倍、陸奥臣、

ト。蓋シ奈須直ハ、モト下野國那須郡ノ豪族ニシテ、進ンデ陸奥國白河郡ニ入り、土著シテ其ノ地ノ名族トナリ、郡司ニ任ゼラレ居リタルモノナルベシ。而シテ其ノ阿倍ヲ冠セル姓ヲ賜ハリシヲ以テ見レバ、モト阿倍氏ノ一族ナルカ、又ハ同氏ニ縁故アルモノナルコト知ルベク、之ニ由リテ阿倍氏ノ族類ガ那須白河ノ方面ニ其ノ根據ヲ有セシコトヲ察スベキナリ。次ニ先キニモ引ケル續日本紀卷二十九、神護景雲三

年三月辛巳ノ條ニ於テ、吾人ハマタ陸奥國白河郡人外正七位上^{ハチカネ}、丈部^{ハチカネ}子老ニ姓ヲ阿倍、陸奥臣ト賜ヒシコトノ記載アルヲ見ル。是レ亦以テ白河郡ハ阿倍氏ニ緣故アルモノ、住ミシ地ナルコトノ一證トスベシ。尙ホ同ジ條ニ於テ、吾人ハ更ニ賀美、標葉^{アサカシ、フ}、安積、信夫、柴田、會津ノ諸郡ノ住人ニシテ、丈部ヲ稱スルモノ、何レモソレゾレ阿倍ヲ冠スル姓ヲ賜ハリシコトヲ知り、之ヲ續日本後紀ノ文ト對照シテ、阿倍ノ族類若シクハ之ニ緣故アルモノ、陸奥ニ於ケル分布頗ル廣キコトヲ認ム。勿論予輩ハ此ノ阿倍氏ノ場合ニ就キテモ、先キニ上^ツ毛野、下^ツ毛野兩氏ニ關シテ述べタルト同様ノコトヲ注意セント欲スルモノニシテ、卽チ阿倍ヲ冠スル姓ヲ賜ハリシモノ皆悉ク眞ニ大彥命ノ後裔ナルヤハ疑ハシト思惟スレドモ、兎ニ角彼等ガカ、ル姓ヲ賜ハレルコトハ、其ノ阿倍氏ニ何等カノ緣故關係ヲ有セルモノナルコトヲ示シ、其ノ分布ノ廣キコトハ阿倍氏ノ族類ニ勢力ヲ樹立セル範圍ノ廣キコトヲ表スルモノナリト信ズルナリ。而シテ其ノ勢力ノ及ビシ徑路ハ、前ニイヘル如ク、主トシテ、山道卽チ那須白河ノ道筋ニ由レルコトナラン。

早キ時代ニ於テ、越ノ方面ヨリノ東北邊經略ハ、阿倍氏ノ族類、主トシテ之ニ當リ

シコト、顯著ナル事實ナリ。是レハ能ク知レ渡リ居ルコトナレバ、茲ニ煩ハシク之ヲ
說カザルベシ。

奥羽ヘ移民ノ事蹟ニ就キテハ、續日本紀ニハ、割合ニ多ク其ノ記事アリ。今先ヅ和
銅ヨリ天平ニ至ル間ノ時期ニ就キテ予輩ノ氣付キシモノヲ左ニ舉ゲン。

(元明天皇和銅七年冬十月丙辰、勅、割尾張、上野、信濃、越後等國民二百戶、配出羽、柵
戶、

(靈龜元年五月庚戌、移相模、上總、常陸、上野、武藏、下野、六國、富民千戶、配陸奥、

(元正天皇靈龜二年九月乙未、從三位中納言巨勢朝臣萬呂言、建出羽國、已經數年、
吏民少稀、狄徒未馴、其地膏腴、田野廣寬、請令隨近國民、遷於出羽國、教喻、狂狄、兼保
地利、許之、因以陸奥置賜最上二郡、及信濃、上野、越前、越後四國、百姓各百戶、隸出羽
國焉。

(養老元年二月丁酉、以信濃、上野、越前、越後、四國百姓各一百戶、配出羽、柵戶焉。

(同三年秋七月丙申、遷東海、東山、北陸、三道、民二百戶、配出羽、柵焉。

(同六年八月)丁卯、令諸國司簡點^{ナシ}柵戶^ノ一千人、配陸奥鎮^ニ所焉。

(聖武天皇天平五年)十二月巳未、出羽柵遷置^ニ於秋田、村高清水岡^ニ又於雄勝村^ニ建郡^ニ居民焉。

奈良時代ノ初期ニ當リ政府ハ、屢々諸國ノ人民ヲ奥羽ノ地ニ移シ以テ邊境ヲ充實シ、蝦夷ニ備ヘ、且開拓ヲ計リシコト、以上ノ記事ニ徴シテ明白ナリトス。而シテ其ノ移民ハ諸國ヨリ之ヲ徴シタルコトナルガ、出羽ニ移サレタルモノハ、地理上ノ關係ヨリシテ、上野、信濃、越前^{越前ハ、モト加賀能登ヲ含メリ。加賀ハ、弘仁十四年二月始メテ置カレ、能登ハ、養老二年五月ニ建置セラレタルモノナリ。}越後等ヨリセ^{ルモノ、特ニ多カリシナリ。}

次ニ天平寶字及神護景雲年間ニ於テ、予輩ハ左ノ如キ種々ノ注意スベキ記事アルコトヲ見ル。

(孝謙天皇天平寶字元年)夏四月辛巳、中略勅曰、(中略)古者、治民安國必以孝理百行之本、莫先於茲、宜令天下家藏孝經一本、精勤誦習、倍加發^上、^{教授ニ作ル}百姓間有孝行通人、鄉閭欽仰者、宜令所由長官具以名薦、其有不孝不恭不友不順者、宜配陸奥國

桃生、出羽國小勝^{カチニテ}以清風俗^ヲ亦捍邊防^{ガシム}（下略）

（淳仁天皇天平寶字二年冬十月甲子發陸奧國浮浪人^ノ造桃生^{ウカレビトヲラシム}城既而復^ニ其調庸^ヲ便^チ即占着^{ケチメケシム}又浮宕^ノ之徒貫爲^ヲ柵戶^ス、

（天平寶字三年秋七月庚辰左京人中臣朝臣揖取詐造^テ勅書^ヲ誣誤^ス民庶^ヲ配出羽國柵戶^ス、

（同年九月庚寅遷^ス阪東八國竝越前能登越後等四國浮浪人^ヲ二千^ニ以爲^テ雄勝柵戶^ス、

（下略）

（同四年三月辛未沒官奴二百三十三人婢二百七十七人配雄勝柵竝從良人^ニ、

（同年十二月戊寅藥師寺僧莖達俗名山村臣伎婆都與同寺僧範曜博戲爭道遂殺^ス範曜還俗配陸奧國桃生柵戶^ス、

（同六年閏十二月丁亥配乞索兒^{ソホカヒヒト}一百人於陸奧國使即占著^カ、

（同七年九月庚申河內國丹比郡人尋來津公關麻呂坐殺母^ス配出羽國小勝柵戶^ニ、

（稱德天皇神護景雲元年十一月丙寅私鑄錢人王清麻呂等四十人賜姓鑄錢部^ヲ流^ス出羽國^ニ、

(同二年十二月)丙辰、勅陸奥國管內、及他國百姓、樂住伊治桃生者、宜任情願、隨到安置、依法給復、

(同三年春正月)己亥、陸奥國言、(中略)又被天平寶字三年、○三年ハ恐ラクハ二年ノ誤ナラント云フ符差、浮浪一千人、以配桃生、棚戶、本是情抱、規避、萍漂蓬轉、將至城下、復逃亡、如國司所見者、募比國三丁已上、戶二百烟、安置城郭、永爲邊城、○城恐ラクハ成ノ誤ナラント云フ其安堵以後、稍省鎮兵、官議奏曰、夫懷土重遷、俗人常情、今徙無罪之民、配邊城之戍、則物情不穩、逃亡無已、若有進趨之人、自願就二城之沃壤、求三農之利益、伏乞不論當國他國、任便安置、法外給復、令人樂遷、以爲遵守、奏可、

(同年二月)丙辰、勅陸奥國桃生伊治、二城、營造已畢、朕土沃壤、其毛豐饒、官令坂東八國、各募部下百姓、如有情好農桑、就彼地利者、則任願移徙、隨便安置、法外優復、令民樂遷、

(同年六月)丁未、浮岩百姓二千五百餘人、置陸奥國伊治村、

以上煩ヲ厭ハズ、列舉セル所ヲ概括シテ之ヲ考フルニ、奈良時代ニ於テハ、奥羽ヘノ移民ハ、其ノ性質種々ナルモノアリ、中ニ就キテ、左ニ舉グルガ如キ種類ノモノア

ルコトハ吾人ノ頗ル興味ヲ感ズル所ナリ。

一、罪人ヲ奥羽ニ配シテ柵戸トシタルコト、

二、諸國ノ浮浪人ヲ驅リ集メテ奥羽ノ地ニ遷セシコト、

三、不孝不恭不友不順等、好マシカラザル人物ナドヲ陸奥出羽へ追ヒヤラントシタルコト、

以上ハ何レモ内地ニ於ケル厄介者ナルヲ以テ、之ヲ邊地ニ移シ、其ノ防備及開拓ノ爲メニ使用スルコト一舉兩得ナリト考ヘラレタルモノナルベシ。但シ浮浪人ノ如キハ、強制的ニ之ヲ移スモ、忽チマタ逃亡シテ定住セズ、コヽヲ以テ政府ハ、自カラ進ンデ移住シ拓殖ニ從事セントスル良民ニハ、特別ノ恩典ヲ與フルコト、シテ之ヲ獎勵シタルナリ。

以上ノ外、前文ニハ見エザレドモ、陸奥出羽ニ赴任セル官吏、該地方ニ派遣セラレタル將士及兵卒等ノ中、止マリテ其ノ地ニ土著シ、拓殖ニ從事シタルモノアルベキハ、亦吾人ノ容易ニ推測シ得ル所ナリ。

本編ハ最初三四回ニテ完結スベキ考ナリシニ、豫想ヨリモ頗ル長クナリテ、既ニ七回ニ亘レリ。而シテ尙ホ最初豫期セシ所ヲ悉ク説キ了ルニ至ラズ。歸化人來住ニ關スル事實ハ、未ダ少シモ述ブルニ至ラザルノミナラズ、所謂日本種族ニ屬スル人民ノ移住ニ就キテモ、奥羽拓殖移住ニ關シテ本號ニテ論ジ及バザル問題、及古昔海外ニ出テ、居住セル日本人ノコトナド尙ホ殘リ居レリ。然レドモ餘リニ長クナリテハ、徒ラニ讀者ノ倦厭ヲ招ク恐レアルベキヲ以テ、本編ハ一先ヅ是レ丈ケニテ完結トシ、茲ニ説キ漏ラシタル事項ニ就キテハ、他日マタ別ニ新ナル題目ノ下ニ之ヲ論述スルコト、セントス。讀者、乞フ之ヲ諒セラレシコトナ。